

# 法帖所収の顔書一覽

——浙江省博物館蔵の南宋拓『忠義堂帖』によせて——

宮 崎 洋 一

## はじめに

1994年、清の孫承沢（1592～1652）の旧蔵品で、現在は浙江省博物館に蔵される南宋拓の『顔魯公帖』（以下、浙本と略す）の全体が西泠印社によって影印された。<sup>(1)</sup>本稿は、この浙本を中心に法帖に収められた顔真卿の書を整理しておこうとするものである。

## 1、基本データ

『顔魯公帖（通称、忠義堂帖）』は、正帖六卷続帖二卷、南宋・嘉定8（1215）年、留元剛が集刻して恐らく湖州の顔真卿の祀堂においたもので、その後、嘉定10（1217）年、鞏嶠が補刻した。現在では宋刻・宋拓の法帖は非常に貴重なものである。

しかし、『淳化閣帖』をはじめとする王羲之の法帖に関する著録が非常に多いのに比べて、『忠義堂帖』に関する著録がほとんど無いことから明らかなように、この『忠義堂帖』はほとんど流布しなかったのではないと思われる。その僅かな記録の中でも最も古い記録と思われる、元の王惲（1304年没）の「題所臨顔魯公十帖後」（『秋澗先生大全文集』巻72）には、

大名楊君順之家、藏劉元剛嘉定間忠義堂所刻魯公書廿一帖。予擇其大小尤精者、臨一十紙。

〈楊順（未詳）先生の家には、劉元剛が嘉定年間に忠義堂で刻した顔真卿の書21帖がある。私は、その大小最も優れたものを選んで、10紙を臨書した。〉とあり、後掲の一覧表からも明らかなように、「廿一帖」というのは浙本の半数に満たない。また、この次に古い記録である明の范大澈（1610没）の「忠義堂帖」（『碑帖紀証』）にも、

宋人所刻不知幾卷。余得二大帙。俱顔魯公書東林・西林・雁塔題名、家廟碑。

〈宋の人によって刻されたものは何巻かはわからない。私は2帙を手に入れたが、ただ顔真卿の書いた東林・西林・雁塔の各題名と家廟碑だけである。〉

とあって、すでにその巻数もわからず、またその内容も全く異なる。

この次の記録は、1660年に書かれた孫承沢の「顔魯公忠義堂帖」(『庚子銷夏記』巻6)であるが、これは浙本そのものに関する記述である。

この後、浙本以外の『忠義堂帖』が作られる。何紹基(1799~1873)が摹し咸豐年間(1851~1861年)に上石された本(以下、何本と略す)、張穆(1805~49)が摹して1861年に上石された本(以下、張本)、吳式芬(1796~1856)が1833年に摹し1875年上石された本(以下、吳本)などが知られるが、その内容にはかなりの異同があり、特に浙本との異同は大きい。

日本では二玄社による影印(『唐 顔真卿 忠義堂帖』上・下、1961年)によって吳本がよく知られているが、中村裕一氏が『忠義堂帖』を用いた告身(2)の研究が見られないとして二玄社の影印の価値を高く評価するとおり、『忠義堂帖』全体が世に広く知られるようになったのは恐らくこの二玄社の影印によってであろう。

ここまでの概略によっても、現在の日本では非常に有名な『忠義堂帖』も、前近代の中国では非常に稀見の法帖であったということが明らかとなるだろう。本稿は、法帖の目録として最も詳細な容庚『叢帖目』(全4冊、中華書局香港分局、1980~86年)と宇野雪村『法帖事典』(雄山閣、1984年)の2書から、法帖の中に収められた顔真卿の書を抜き出して整理しようとするものである。

すでにこのような法帖の整理には中田勇次郎氏の「彙帖所載顔真卿碑帖目録」<sup>(3)</sup>があり、45種の法帖が挙げられ、法帖ごとに所収の作品が列挙されている。本稿は、この中田氏の業績を基礎にして、中田氏の未収の法帖や臨書作品までを視野に入れ、さらに改めて作品ごとに整理する。この整理によって、前近代の中国において特に鑑賞されてきた顔真卿の書が何であったか、このたび影印された浙本がいかに独特で豊富な内容を含んでいるか、などを一瞥しようとするものである。

## 2、収録した法帖一覧

本節では、前節で言及した容庚『叢帖目』と宇野雪村『法帖事典』の2書を用いて、顔真卿の作品(後人の臨書を含む)を収めた法帖をその刻年順に整理して、通し番号を付す。法帖名の前に「○」印のある法帖は、前述の中田氏の「彙帖所載顔真卿碑帖目録」に挙げられている法帖。「叢帖目」の欄は第○冊、第○頁を、「法帖事典」の欄は上册「本論編」の頁数示しているが、疑問の残る法帖については「？」をつけた。なお、『叢帖目』と『法帖事典』に収められている顔真卿の専帖として、『顔魯公叢帖』(正・続、1934年)があるが、今回は調査することができなかった。ただ、この法帖は、求古斎書局の影印によるもののようであり、また本稿に収めた法帖より少し後のものであるから、性質がかなり異なる。

法帖名	刻年	叢帖目	法帖事典
001 ○絳帖二十卷	1049~1063	1-0049	077
002 ○汝帖十二卷	1109	1-0108	081
003 ○博古堂帖存一卷	1131~1162の初め 又は1190~1194	1-0119	086
004 唐宋名人帖四卷	1176	4-1552	085
005 淳熙祕閣續帖十卷	1185	1-0127	076
006 ○羣玉堂帖十卷	1207以前	1-0134	086
007 ○顏魯公帖六卷續帖二卷（浙本）	1215、1217	3-1137	231
008 ○東書堂集古法帖十卷	1416	1-0176	129
009 ○寶賢堂集古法帖十二卷	1496	1-0194	130
010 ○停雲館帖十二卷	1537~1560	1-0221	114
011 ○潑墨齋法書十卷	1580以後	1-0311	140
012 ○餘清齋帖十六卷續帖八卷存八卷	1586~1614	1-0254	093
013 玉蘭堂帖四卷	1590	4-1551	
014 ○戲鴻堂法書十六卷	1603	1-0262	111
015 ○墨池堂選帖五卷	1602~1610	1-0273	119
016 寶鼎齋法書六卷	1609	3-1220	
017 鬱岡齋墨妙十卷	1611	1-0287	103
018 ○玉烟堂帖二十四卷	1612	1-0297	125
019 聚奎堂集晉唐宋元明名翰真蹟五卷	1612	4-1556	
020 書種堂續帖六卷	1617	3-1239	241 ?
021 紅綬軒法帖四卷	1619	3-1228	241
022 延清堂帖六卷	1624	3-1230	
023 劍合齋帖六卷		3-1232	144
024 ○海寧陳氏藏真帖八卷		1-0323	
025 有美堂帖十二卷	1629	4-1560	143 ?
026 汲古堂帖六卷	1630	3-1251	241
027 研廬帖六卷	1631	3-1253	241
028 清鑒堂帖十卷	1637	1-0326	326 ?
029 ○快雪堂法書五卷	1641以後	1-0348	137
030 銅龍館帖六卷		3-1256	241
031 ○秋碧堂法書八卷	明末清初	1-0379	148
032 ○擬山園帖十卷	1659	3-1283	243
033 ○清暉閣藏帖十卷		3-1265	240

法 帖 名	刻 年	叢帖目	法帖事典
034 ○秀餐軒帖四卷	1619又は 1662～1722の初め	1-0364	122
035 ○李書樓正字帖八卷	1662～1722	1-0407	
036 ○獅子林袖珍藏石四卷	1665		193
037 ○式古堂法書十卷	1667	1-0357	144
038 ○職思堂法帖八冊	1672	1-0367	200
039 ○翰香館法書十卷附二卷	1675	1-0373	158
040 ○懋勤殿法帖二十四卷	1690	1-0384	200
041 來益堂帖四卷	1692	4-1676	254
042 百石堂藏帖十卷	1695	3-1261	254 ?
043 落紙雲煙帖四卷	1705	3-1291	213
044 ○敬一堂帖三十二卷	1715	1-0414	213
045 ○聽雨樓帖四卷	1736～1795	4-1569	
046 ○玉虹鑑眞帖十三卷	1736～1795	2-0479	172
047 玉虹樓零種九卷	1736～1795	2-0495	
048 玉虹樓法帖十二卷	1736～1795	2-0503	
049 玉虹樓石刻四卷	1736～1795の末	2-0510	172
050 金石圖二卷	1743	4-1346	213
051 ○三希堂石渠寶笈法帖三十二卷	1747又は1750	1-0429	149
052 ○墨妙軒法帖四卷	1754又は1755	2-0455	156
053 時晴齋法帖十卷	1758	4-1697	253
054 ○慈惠堂墨寶八卷	1768	2-0462	164
055 仁聚堂法帖八卷	1770又は1806	2-0466	204
056 傳經堂法帖四卷	1777	3-1269	255
057 因宜堂法帖八卷	1785	4-1573	200
058 唐宋八大家法書十二卷	1787	4-1577	202
059 小行楷書帖十卷	1794	4-1707	
060 望雲樓集帖十八卷	1796～1820	2-0641	216
061 三希堂法帖撫本六卷	1799	2-0533	
062 寄暢園法帖六卷	1801	2-0536	201
063 平遠山房法帖六卷	1802	4-1584	213
064 契蘭堂法帖八卷	1805	2-0545	214
065 ○清愛堂石刻四卷墨刻二卷	1805	3-1316	248
066 詒晉齋法書三集四卷	1805以後	4-1726	246

法帖名	刻年	叢帖目	法帖事典
067 ○詒晉齋巾箱帖四卷	1807	4-1718	248
068 試硯齋帖四卷	1807	3-1023	255
069 宋賢六十五種八卷	1807	4-1596	206
070 紫藤花館藏帖四卷	1811	3-1034	
071 小清祕閣帖十二卷	1811又は1812	2-0580	202
072 ○貞隱園法帖十卷	1813	4-1523	190
073 惟清齋手臨各家法帖四卷續臨二卷	1816	4-1736	246
074 ○餐霞閣法帖五卷	1817	2-0619	167
075 ○王虛舟摹古法帖十六卷	1817	3-1310	165
076 吳興帖六卷	1817又は1818	2-0622	250
077 隱墨齋帖八卷	1818	2-0512	174
078 樸園藏帖六卷	1818又は1822	2-0624	207
079 話雨樓法書八卷	1818	4-1731	216
080 縮臨唐碑三十二卷附四十種目錄	1819	4-1529	
081 裊沖齋石刻十二卷附二卷	1819又は1820	2-0628	207
082 三松堂墨刻十卷	1820以後	4-1713	254
083 蔬香館法書五卷	1821	2-0653	
084 述德堂枕中帖四卷	1822	4-1749	251 ?
085 安素軒石刻十七卷	1824	2-0656	171
086 味古齋憚帖二卷	1826	3-1298	
087 寶憚室帖四卷	1827	3-1300	
088 學古齋四體書刻四卷	1828	4-1751	
089 蓮池書院法帖六卷	1830	2-0675	211
090 貯香館小楷六卷	1837	2-0706	
091 嶽麓書院法帖一卷	1839	2-0682	
092 ○南雪齋藏真十二卷	1841~1852	2-0810	188
093 國朝畫家書四卷	1845	3-1095	
094 聽雨樓法帖四卷	1851	4-1590	
095 ○忠義堂帖二卷（何本）	1851~1861	3-1142	233
096 ○激觀閣摹古帖四卷	1852以後	2-0817	190
097 ○海山仙館摹古十二卷	1853	2-0766	175
098 海山仙館藏真三刻十六卷	1857	2-0735	176
099 ○忠義堂帖一卷（張本）	1861	3-1143	233
100 敬和堂藏帖八卷	1871	2-0827	216

法帖名	刻年	叢帖目	法帖事典
101 ○忠義堂顔書四卷（呉本）	1875	3-1144	232
102 話山草堂帖八卷	1875	4-1759	
103 ○穠梨館歴代名人法書八卷	1882	2-0847	187 ?
104 過雲樓藏帖八卷	1883	2-0850	193
105 且靜坐室集墨四卷	1887	3-1122	
106 ○鄰蘇園法帖八卷	1892	2-0853	168
107 樵古齋石刻二卷	1896	4-1765	
108 石耕山房法帖六卷	1906	4-1361	
109 ○壯陶閣帖三十六卷	1912	2-0867	195
110 壯陶閣續帖十二卷補遺一卷	1922	2-0882	198
111 蘊真堂石刻四卷	1927	2-0886	
112 絳帖十二卷（僞）		4-1770	079
113 戲魚堂帖十卷（僞）		4-1779	050
114 星鳳樓帖十二卷（僞）		4-1786	084
115 祕閣帖十卷（僞）		4-1794	

### 3、法帖中の顔書一覧

本節では、前節の法帖一覧に付した番号に基づいて、法帖所収の顔書を整理する。「浙本」のナンバーは影印本の頁数で「P」は上册、「P」は下冊である。「何本」の「上」「下」は『叢帖目』に書かれた上・下の別、「張本」の「○」は所収の作品で「？」は恐らく含まれていると思われる作品。「呉本」のナンバーは二玄社の影印本の頁数で「P」は上册、「P」は下冊である。「所収法帖」のナンバーは前節で各法帖に付したナンバー、その前に付した「く」は後人の臨書であることを示している。最後の（ ）は別称。作品の中には顔真卿の書とは思えないものや未見の作品も多数あるが、その個々の精査は別稿にゆだねる。

	浙本	何本	張本	呉本	所収法帖
移蔡帖	P 001	上	○	P 013	
奉命帖	P 019	上			018, <056, (蔡州帖)
与蔡明遠帖	P 022	上	○		001, 012, <016, <022, <026, 029, <033, <056, <073, <081,
鄒游帖	P 030	上	○		001, <022, 029, (与蔡明遠帖)

	浙本	何本	張本	吳本	所 収 法 帖
寒食帖	P 033	下	○		001,003,029,103,(天氣殊未佳帖)
叙本帖	P 034	?	?		029,<040,(廬八倉帖)
乍奉辭帖	P 034	下	○		001,008,009,014,018,019,029, <040,040,<069,(與廬八倉帖)
朝廻帖	P 037	下		P 005	<023,037,054,(與李太保帖)
乞米帖	P 038	下		P 006	<021,<022,<023,<033,037,<042, <051,075,<100,(借米帖,與李太保 帖)
鹿脯帖	P 040	下	○	P 007	003,011,014,015,018,<023,024, 025,029,<033,034,037,039,040, <051,054,<065,<069,103,112, 113,114,(陰寒帖,與李太保帖)
峽州帖	P 042	下	○	P 009	(與李太保帖)
奉袂帖	P 045	下	○	P 016	
修書帖	P 047	下	○	P 012	054,(賊軍帖)
守政帖	P 048	下	○	P 028	
広平帖	P 051	下	○	P 033	(得示帖)
中夏帖	P 054	下		P 035	
與夫人帖	P 055	下	○	P 018	
華嚴帖	P 060	下		P 022	014,(與澄)
文殊帖	P 062	下		P 024	091,
鹿脯後帖	P 065	下	○	P 027	024,040,103,
一行帖	P 066	下	○		002,004,<032,037,<069,112,113, 114,(一得帖,江淮帖)
訊後帖	P 068	下	○	P 036	
御史帖	P 474			P 003	
南來帖	P 476			P 004	
草篆帖	P 477		○	P 042	
江外帖	P 480		○	P 031	037,051,(湖州帖)
送書帖	P 484	○	○	P 039	
劉中使帖					014,054,106,(近聞帖)
倣右軍桓司馬帖					004,
倣右軍道次瞻望帖					004,
倣右軍五月六日帖					004,
臨右軍天氣帖					<044,

	浙本	何本	張本	吳本	所 収 法 帖
祭姪稿			○		003,004,010,011,012,014,<016,018,028,058,063,<073,103,106,109,113,114,115,
祭伯稿					003,004,017,<073,096,097,103,109,
争坐位帖	P 005	上			003,014,<016,018,<021,<027,<033,041,<042,<044,046,048,<049,050,052,<053,<056,064,<068,<073,075,<081,<086,<087,097,<100,<102,103,<104,109,
書馬伏波語	P 071	下	○	P 069	003,091,
送辛子序	P 076				
送劉太冲序	P 086	上	○	P 063	014,018,<022,<026,<033,035,<039,<042,<043,<044,054,055,<056,<059,<070,<073,075,096,<104,110,
裴將軍詩	P 095	下	○	P 037	<033,<089,109,111,
刻清遠道士詩	P 122		○		
竹山連句					<026,031,076,078,<080,
虎丘寺詩					<080>,
蘭亭詩					<087,
東方朔画贊碑					<065,<080,
同陰記	P 145				
八閔齋会報德記					<026,057,<060,
大唐中興頌					<020,<047,048,050,<080,
華嶽廟題					<080>,
千祿字書					<080,<088,
麻姑仙壇記					010,013,018,<026,<030,036,041,058,074,<080,<090,<092,108,
小字本					011,034,040,048,<062,<093,097,<109,
中字本	P 137	下		P 055	106,
大字本		上			
宋璟碑側記					<026,<059,064,
十二筆法記					038,045,058,
多宝塔碑					041,050,058,<080,<088,089,<098,
郭公廟碑銘	P 199 P 245				<088,



	浙本	何本	張本	吳本	所収法帖
臧懷恪碑					<080,
元結碑					<080,
殷夫人碑					050,
顏氏家廟碑					050,<080,
放生池帖	P 289	下	○	P 045	<098?,
同肅宗批答	P 384	?			
顏元孫制	P 416			P 003	
顏昭甫制	P 420		○	P 007	
顏真卿太子少師告	P 430 P 465		○		014,<026,031,040,<043,046,051, 055,061,<066,<067,<073,075, <077,<079,<080,<085,094,106, (自書告身)
同蔡襄跋	P 439				019,
顏真卿刑部尚書告	P 441			P 029	
顏惟貞制	P 453			P 015	
蘭陵殷夫人制	P 459 P 468			P 021 P 025	
朱巨川告身					010,051,075,<080,<084,
尚書吏部下小楷五行					014,
張令曉告					044,071,
<帖名不明>					005,006,072,<079,<082,<083, <107,<109,

## おわりに

本稿では図版を掲げる余裕がないので、書風の分析には全く言及できないが、前節のわずかな整理によっても様々なことが明らかになる。

顏真卿の知名度から考えても、非常に多くの法帖に顏真卿の作品が収められているのは当然だが、その一方で、例えば、「移蔡帖」「峽州帖」「奉袂帖」などのように、浙本をはじめとする『忠義堂帖』以外ではほとんど見られない作品も多い。特に「送辛子序」は浙本で初めて知られた作品であるし、「刻清遠道士詩」も浙本以外では、張本にしか収められていない。また顏真卿の書ではないが「放生池帖」に付された肅宗の批答もたいへんに珍しい。そして、このように、浙本

にすでに収められていた作品の流布にばらつきがあることは、とりもなおさず浙本が流布しなかったことを示すであろう。

作品の種類と順番から考えるならば、日本でよく知られる呉本は必ずしも浙本を祖本とするとは言い切れない。このことは浙本の題が「顔魯公書 忠義堂」と楷書で書かれるのに対して、呉本は「忠義堂顔書」と隸書で書かれていることも傍証となる。この題の問題からするならば浙本とほぼ同じ書き方をするのは張本である（何本は未見）。

まだまだ子細に検討すべきことは非常に多い。いずれにしても、前近代の中国人が法帖の中で見ていた顔真卿は、浙本全体の作品とはかなり違った作品であり、「偶然手にした作品」「よく見る作品」によって顔真卿に対する印象が形成されていったであろうと想像される。そして、このことは現在にまで続いている問題である。

#### 注

- (1) 『宋拓本・顔真卿書 忠義堂帖』上・下、西冷印社、1994年
- (2) 中村裕一『唐代官文書研究』中文出版社、1991年、154頁
- (3) 『顔真卿書蹟集成』「解説・解題篇」2、東京美術、1985年、所収。本稿脱稿後、黄宗義『顔真卿書法研究』（蕙風堂筆墨有限公司出版部、台北、1993年）の中に中田氏とほぼ同様の整理があることを知った。中田氏の列举した法帖とはやや出入りがあるものの、ほぼ同数の50種の法帖を掲げ、作品ごとに整理している。本稿のような顔真卿の書に対するイメージが一部の作品が流布することによって形成されたとする論点はないけれども、その一方で、「祭姪稿」「祭伯稿」が含まれている北宋末の『甲秀堂帖』のデータが本稿から漏れていることも教えられた。疎漏をお詫びする。